

平成24年11月に福岡大学病院の公式Webページがリニューアル

今回のリニューアルでは、一般の方や医療関係者の皆様が知り得たい情報を分かりやすく公開することや、必要な情報を調べやすくしたことはもちろんですが、携帯電話やスマートフォンからの閲覧を可能とし、必要な情報をいつでもどこでも得られるようになります。

新しいWebページでは、福岡大学病院や各診療科の様々な医療統計データを順次公開して病院の活動状況や特徴を分かりやすく提示していく予定です。また、動画配信の機能を積極的に取り入れ、J:COM九州と共同製作している健康情報番組「テレビdeホームドクター」の放送映像を、過去の放送分も含めて配信するほか、当院が開催している様々な講演会やセミナーの映像も配信する予定です。

当院のWebページは、ご覧いただく皆様のご意見を聞きながら、成長するWebページを目指しており、11月のリニューアル以降も、情報内容の充実や新たな機能を追加してまいります。今後、このWebページにて、様々な情報を積極的に発信してまいりますので、是非、ご利用ください。



(完成イメージ)

福岡大学病院 〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
TEL (092)801-1011(代)

発行：医療情報部 URL：http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/

福大病院ニュース

2012 季刊
秋号
No.81



平成24年9月6日 第6回メディカルセミナーが開催されました。



福岡大学病院の基本理念 あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに忘れる患者中心の医療の提供

患者さんの権利と義務

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。福岡大学病院では、信頼され安心して受診していただける病院を実現するため、患者さんの基本的な権利を明確にしてこれを職員一同が認識すると共に、患者さんにも義務を守っていただくことをお願いします。

《患者さんの権利》

1. 受療権
患者さんには常に人間としての尊厳と差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 選択権
患者さんには病院を自由に選択し、変更する権利があります。
3. 自己決定権
患者さんは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて十分説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否する権利があります。
4. 知る権利
患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. プライバシー保護権
患者さんは医療上得られた個人の情報がプライバシーが守られる権利があります。

《患者さんの義務》

1. 情報提供義務
患者さんは良質な医療の提供を受けるために、ご自分の健康に関する情報をできる限り正確に医師や看護師に提供してください。
2. 状況確認義務
患者さんは納得のいく医療の提供を受けるために、医療に関する説明を受け、理解できない場合は理解できるまで質問して確認してください。
3. 診療協力義務
全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則、職員の指示を守ってください。
4. 医療費支払い義務
適切な医療を維持していただくために、医療費を遅滞なくお支払いいただくことが必要です。

皮膚科・形成外科・美容医療センター

皮膚科における美容診療

皮膚科
医師 佐藤 典子

美容皮膚科外来の開設

平成23年1月に開設された、皮膚科・形成外科・美容医療センターのご紹介をします。全国的に見ても、大学病院が美容皮膚科外来を開設している施設はまだ少ないといえます。

当センターは、皮膚科と形成外科が両科で一つのユニットの側面があり、珍しいシステムとなっています。それぞれ大学病院の専門性を有する独立した科ですから、その追求する基本的学問性や取扱い疾患は、異なっています。このため、通常の診療では接点がありません。当センターの場合、月に1回、美容皮膚科・形成外科合同カンファレンスを行っています。互いの専門的な発想、論理性、技術などの背景をクロスさせて、全員で研鑽に努めることは、とても有意義といえます。

美容皮膚科外来の特徴

当美容皮膚科外来のスタッフは、美容的診療だけに携わるわけではありません。当科全スタッフは、通常診療において、大学病院の役割を担い、正確な皮膚疾患の診断と治療にあたっています。そして、地域開業皮膚科の先生方との連携を重要視しています。このように皮膚の構造、病態、機能を知り、豊富な治療経験を有する医師が、美容皮膚科外来を兼任しています。そして、基礎的知識に裏付けられた最先端の美容治療を全国に先駆けて発表しています。

美容皮膚科外来の受診方法

まず、午前的一般皮膚科外来を受診してください。そこで診断がついた後、後日の午後の美容皮膚科外来に予約となります（現在予約が混み合っており、お待たせするかも知れません）。美容皮膚科外来診察時に、あらためて治療方針を組み立てます。

また、治療の種類をご自身で決めて受診されても、それ以外が適切なこともあるのをご了承ください。

その他の例として、シミの診断と治療は様々あります。レーザー治療は病変部を消しゴムで消すような認識を持たれていることが多く見受けられます。しかし、レーザー照射後の色素沈着の問題など、ご理解頂いてから、治療となります。詳細は診察時にご説明いたします。

お顔の処置の場合は、化粧をすべて落として、ロボスキンアナライザーで、経過の記録をします。殆どの場合、帰院時にはお化粧して帰れますので、メーキャップ道具をご持参ください。

美容皮膚科外来の対象疾患

- 1) 老人性色素斑、雀卵斑、肝斑などのいわゆるシミのレーザー治療や内服薬・外用剤による治療
- 2) 中高老年のくすみ、小じわ、はりなど肌質改善のためのケミカルピーリング
- 3) 光治療、レーザー治療による顔の肌のはりタイトニング
- 4) レーザー脱毛

現在は、上記を中心に行っています。あざや血管腫のレーザー治療を除いて、保険適応はありません。

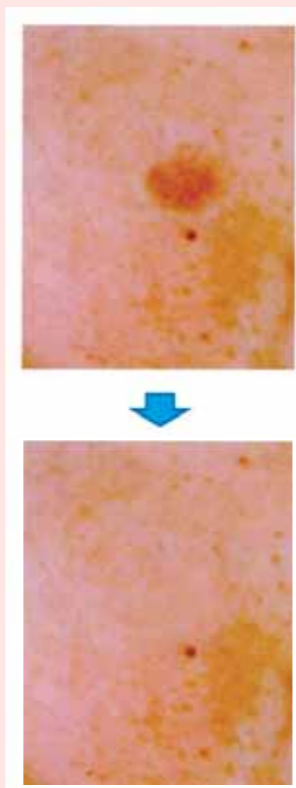
美容皮膚科の対象となる方は、若い方から徒歩で来られる超高齢者まで、男性も女性も治療しています。どちらかといえば、アンチエイジング目的が多く、いきいきとした若々しさを得ることを目標としています。

美容皮膚科外来の未来

超高齢化社会の到来とともに、“さっそう”と“しなやかに”老いを迎える方々が増えました。美容診療が特別なものではなく、身近なものに変わってきました。

美しさとは、生き生きとした表情、安定した情緒、生きがいや毎日の達成感があること、体の体勢保持など、その人らしさ、全体の印象で決まります。単に、見かけの問題だけではなく、食事、睡眠なども重要な要素となるでしょう。

今後、当科では、白を基調にした明るい外来のなかで、最新の治療、最善の治療、あたたかい治療に邁進してまいります。一層のご支援をお願い申し上げます。



顔の肝斑を合併した老人性色素斑の治療前後

形成外科・美容外科
医師 山住 賢司

形成外科・美容外科について

平成23年1月の新診療棟の開院を機に、「皮膚科・形成外科・美容医療センター」を開設しました。皮膚科と形成外科、取り扱う疾患こそ異なりますが、ともに「からだの表面」を診ることが多い2つの診療科が併設されたセンターとなっています。私たち形成外科は、機能性ととも「形」「見た目」をととのえることを目的とした分野です。単に皮膚のできものを取り除くだけでなく、ケガや傷あとの治療（外傷・創傷管理）、顔面や手足、乳房の再建（腫瘍・再建外科）、生まれつきの外表面の変形の治療（小児形成外科）などを行っています。さらに、皮膚科と合同でカンファレンスを行いながら、いわゆる「美容外科手術」だけにとどまらない、総合的なアンチエイジング・美容医療も行っていきます。

外傷・創傷管理

主に顔の怪我（顔面外傷）、やけど（熱傷）、手の怪我（切断指など）をあつかいます。現在は、キズを早いだけでなく、きれいに治すことが求められています。新しい創傷管理の概念に沿った治療法をはじめ、キズの縫合や皮膚移植、さらに傷あと（瘢痕・ケロイド）や傷あとの引きつり（瘢痕拘縮）に対する治療など、キズに関する治療を幅広く行っています。近年、床ずれ（褥瘡）や糖尿病性足潰瘍など治りにくいキズ（慢性創傷）をもつ患者さんが急増しています。当院ではそれぞれの慢性創傷のためのチームをつくり、専門的な治療を行っています。

腫瘍・再建外科

がん治療や外傷後の変形を修復し、社会生活に復帰しやすくするための手術を行う分野が再建外科です。頭頸部・顔面の再建、顔面神経麻痺に対する再建、乳房再建、手足の再建を数多く行っています。手術用顕微鏡を使って組織を移植するマイクロサージャリーという技術で、さまざまな再建手術を行います。

小児形成外科

主に生まれつきの外表面の変形（先天異常）に対応しています。口唇口蓋裂（いわゆる兔唇、みをつくち）や手足の異常（多指症や合指症など）、耳の変形（小耳症や埋没耳など）、頭の形の変形（クルーズン病など）、漏斗胸、でべそ（臍ヘルニア）などがあります。また、皮膚の先天異常である「あざ」（血管腫や色素性母斑、脂腺母斑など）の治療（レーザー治療、手術）も行っています。

抗加齢（アンチエイジング）形成・美容医療

主に加齢に伴う顔面の見た目の変化（シミ、シワ、たるみなど）が対象となります。美容外科によるフェイスリフトや重瞼術（二重まぶたの手術）などの手術以外にも、レーザーや光（IPL）、ラジオ波（RF）などを用いたシミ・シワ・若返り治療、ボツリヌス毒素（ボトックス）やヒアルロン酸、ハイドロキシアパタイトを用いたシワ治療など様々な治療・研究を行っています。

また、まぶたのたるみを訴える方には「老人性眼瞼下垂症」の方が含まれていることがあります。これはまぶたのたるみだけでなく、まぶたを挙げるすじ（眼瞼挙筋腱膜）のゆるみが原因となっています。日常の頭痛や肩こりなどとも関係があり、手術によりこれらの症状が改善する可能性があるため、通常の外来でも診療しています。

尚、形成外科の美容外来は予約制となっております。まずはお電話にてお問い合わせください。



レーザー治療



外来風景